

石川の
かがやく未来を
支えるみちづくり

石川のみちづくり指針



平成27年3月
石川県

背景

平成15年4月に、本県のみちづくりの方向性を示した「石川のみちづくり指針」を策定し、これに基づき道路整備を進めてきました。

現指針の策定から10年が経過し、東日本大震災の発生や道路施設の老朽化が顕在化するなど、道路を取り巻く環境も大きく変わりつつあります。

また、北陸新幹線金沢開業後もその効果を持続、発展させ、人やものの交流を一層盛んにしていくことが必要であります。

このような状況に対応するため、各界代表者を交えた「石川の道を考える会」での議論、パブリックコメントによる県民の皆様のご意見等を踏まえ、今後、概ね10年間のみちづくりの方向性を示した新たな「石川のみちづくり指針」を策定しました。

本指針の基本理念に掲げた、「石川のがやく未来を支えるみちづくり」の実現に向け、関係機関にも協力を求めながら、今後のみちづくりを進めていきます。

平成26年 8月25日 第1回 石川の道を考える会
●みちづくりの課題、今後求められる視点等について議論

10月22日 第2回 石川の道を考える会
●指針素案について意見交換

平成27年 1月19日 パブリックコメントの実施(～2月2日)
●指針案について意見募集

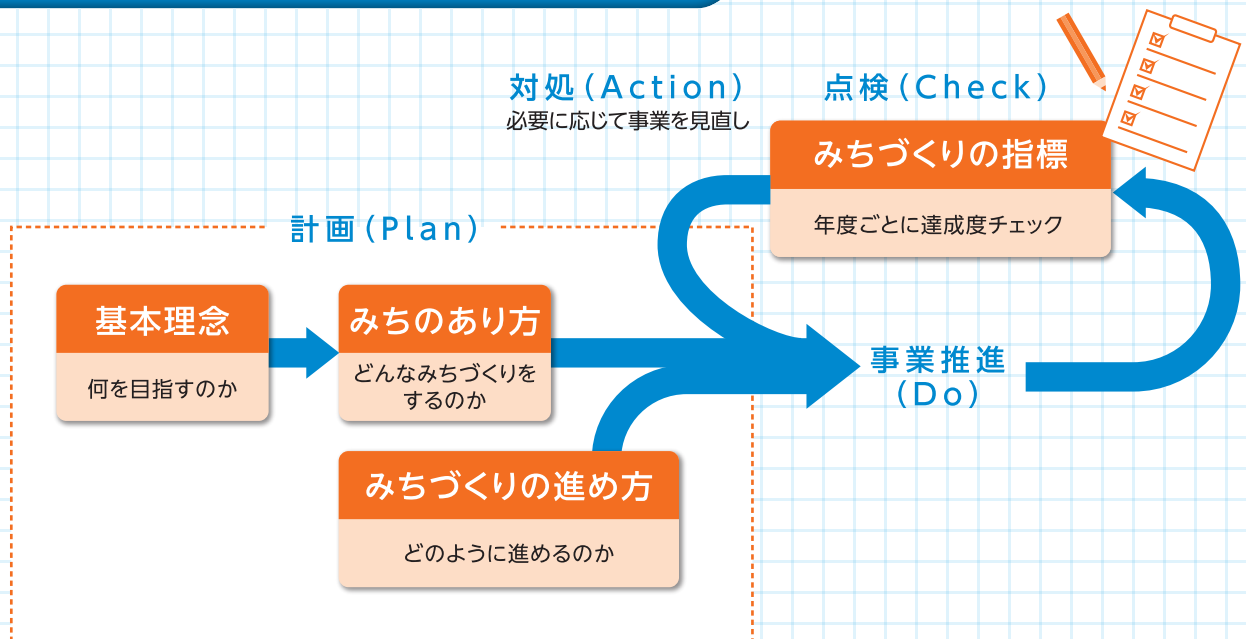
3月18日 第3回 石川の道を考える会
●指針最終案の確認



石川の道を考える会の様子

みちづくりの流れ

(あり方、進め方、指標の関係)



基本理念

石川のかがやく未来を支えるみちづくり

本県がより一層かがやき、未来へ持続・発展していくため、
これを支えるみちづくりを進めます。

あり方1

人との交流を
盛んにする
活力あるみちづくり

あり方2

魅力ある
観光資源を活かす
「おもてなし」の
みちづくり

あり方5

豊かな暮らしを
支える快適な
みちづくり

あり方4

次世代へつなぐ
持続可能な
みちづくり

あり方3

生命・生活を守る
強くしなやかな
みちづくり

みちづくりの進め方

県民と共に、効率的・効果的に進めるみちづくり

みちのあり方(5つの柱)

あり方
1

人とももの交流を盛んにする活力あるみちづくり
～北陸新幹線効果の持続・発展、移住・定住、産業・雇用の支援～

細長い県土の一体化による県内各地の時間距離の短縮

「ダブルラダー結いの道」整備構想に基づく幹線道路ネットワークの整備を進め、細長い県土の一体化により、県内各地の時間距離を短縮します。



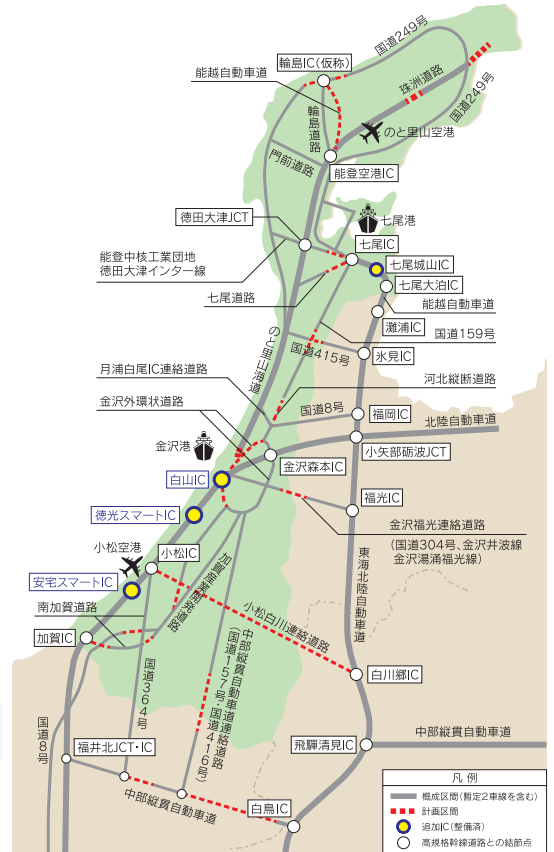
のと里山海道



南加賀道路



金沢外環状道路(海側幹線)



「ダブルラダー結いの道」整備構想

陸・海・空の交流拠点との連携強化

鉄道、港湾、空港などの交流拠点へのアクセスを強化し、これら相互の円滑な連携を確保することにより、充実しつつある交流基盤のポテンシャルを更に高めます。



北陸新幹線



金沢港



小松空港

富山・福井・岐阜、三大都市圏との広域ネットワークの構築

高規格幹線道路や地域高規格道路のネットワーク構築など、隣県や三大都市圏へのアクセスを強化し、広域交流を促進します。



能越自動車道

あり方 2

魅力ある観光資源を活かす「おもてなし」のみちづくり ～増加が見込まれる国内外からの観光客の「おもてなし」～

観光資源としての「みちの価値」の向上

みちそのものを観光資源ととらえ、観光地や中心市街地での無電柱化を核とした街なみ景観の形成や、「いしかわ景観総合条例」に基づく特別地域*の沿線など、美しい里山里海景観等に調和した道路の景観対策を進めます。

*建物等が景観に及ぼす影響が大きな地域。



山中温泉ゆげ街道

「能登・金沢・加賀」各地域を巡る回遊性の向上

魅力ある石川の観光地をゆっくりと楽しみながら周遊できるよう、道の駅や寄り道パーキング、観光周遊道路などの整備を進めるとともに、外国人観光客も含めわかりやすい道路案内・交通情報の提供を行います。



寄り道パーキング「金蔵」

地域のまちづくりと一体となった賑わいの創出

地域が取り組む沿道の景観対策や道路美化活動などのまちづくりと一体となり、地域の賑わいを創出します。

あり方 3

生命・生活を守る強くしなやかなみちづくり ～県民の安全・安心の確保～

緊急時にも信頼性の高い道路ネットワークの構築

災害時の応急活動や、救急時の医療機関への搬送等を支える骨太で多重な信頼性の高い幹線道路ネットワークを構築します。



道路の法面対策

災害被害の最小化に向けた防災・減災対策の強化

地震や津波、頻発する風水害、土砂災害に対応するため、緊急輸送道路等の橋梁の耐震補強や道路法面の落石対策などを実施するとともに、防災拠点としての道の駅の機能など、道路の防災機能を強化します。

交通安全の強化

交通事故が多発する危険箇所の解消や「通学路交通安全プログラム」*に基づく通学路での安全確保に重点的に取り組むとともに、高齢者を含めた全ての方々にとって安全で安心な交通安全対策を進めます。

*市町が中心となり、学校関係者や警察、道路管理者と連携し、通学路の交通安全確保に向けた推進体制や合同点検、PDCAサイクルなどの実施方針を示したもの。



防護柵設置による歩車分離

冬期の交通確保

オペレーターの高齢化などによる担い手不足対策も含めた除雪体制の維持や消融雪装置の整備等により、冬期の安全で円滑な交通を確保します。

あり方 4

次世代へつなぐ持続可能なみちづくり ～高齢化する道路施設の長寿命化～

道路ストックのメンテナンスサイクルの確立

高度経済成長期に集中して建設され、高齢化が進む橋梁やトンネル、シェッドなどの諸課題に対して、各道路管理者が連携して、点検、診断、補修・更新、記録のメンテナンスサイクルを回す仕組みを構築し、道路ストックを次世代に健全な状態で継承していくための体制を確立します。

計画的な道路ストックの長寿命化

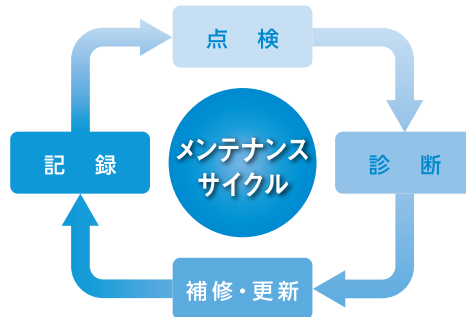
道路構造物の長寿命化修繕計画に基づく計画的な補修・更新に取り組みます。



各道路管理者が一丸となり老朽化対策に取り組む道路メンテナンス会議



計画的に補修



近接目視による点検

あり方 5

豊かな暮らしを支える快適なみちづくり ～誰もが快適に利用できる道路の確保～

円滑な自動車交通の確保

環状道路の整備やバイパス等の整備等により、自動車交通の円滑化を図ります。

公共交通の利用促進

環状道路の整備等により街なかでの通過交通を排除するみちづくりを進めるほか、パークアンドライドなど公共交通の利用促進を図ります。

歩行者・自転車利用者にやさしいみちづくり

歩道のバリアフリー化や既存の道路空間の再配分による自転車通行空間の確保など、歩行者・自転車利用者にやさしいみちづくりを進めます。

地域活性化の支援

地域の拠点施設や幹線道路へのアクセス道路、地域間連絡道路の整備を推進し、都市部や周辺地域との連携を強化するなど、地域の活性化を支援します。



バス専用レーン



区画線により歩行者と自転車を分離

みちづくりの進め方

県民と共に、効果的・効率的に進めるみちづくり



県民と共に進めるみちづくり

意識啓発

現場見学会など、県民がみちに親しみ、みちについて考える機会を積極的に設けます。

ニーズ反映

道の相談室※への意見や道路利用者への満足度調査の実施などにより、道路利用者のニーズを的確に把握し、みちづくりに反映します。

※道路利用者から寄せられる意見・疑問・相談・問い合わせ等に対する総合的な道路相談窓口。
石川県 道の相談室ホームページ：<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/michi/soudan.html>

県民参画

PI(パブリック・インボルブメント)※を積極的に導入するなど、県民と共にみちづくりについて考えます。

※施策の立案や事業の計画・実施などの過程で、関係する住民や利用者などに情報を公開した上で、広く意見を聞き、それらに反映すること。



児童による橋梁高欄の塗装体験



みちづくり協議会の様子

効果的・効率的に進めるみちづくり

ローカルルール^①の導入や既存ストックの有効活用などにより、低コストかつ短期間での効果発現に努めます。

道路構造物の点検・補修についても、石川県建設新技術認定・活用制度^②などによる新技術・新工法を積極的に活用するなど、トータルコストの縮減と平準化に努めます。

※公共工事のコスト縮減や質の高い社会資本整備を図るため、県内の建設関連企業が開発した新技術を県の公共事業で活用し、あわせて県内建設関連企業の育成を図る制度。

交通管理者と協力し、ICT^③を活用しながら、交通情報や積雪状況等を道路利用者に提供することにより、混雑期の渋滞解消や冬期の安全で円滑な交通確保に努めます。

※情報通信技術のこと。この場合、道路に設置した交通観測機器やカーナビ等の情報を収集し、インターネット等により共有すること。

道路や道の駅等を災害時の防災拠点や地域のイベントなど、多目的な用途に活用します。



ローカルルールによる道路整備(1.5車線の道路整備)



石川県ホームページ「石川の雪みちなび」
<http://www.pref.ishikawa.jp/michi/yuki.htm>

みちづくりの指標

みちのあり方	指標	現在	将来	
人との交流を盛んにする活力あるみちづくり	指標 1	県内主要都市1時間圏 ^{※1} 小松市、金沢市、七尾市、輪島市へ1時間で到達する市町の数	小松市: 10市町 金沢市: 14市町 七尾市: 9市町 輪島市: 3市町 (H25)	小松市: 12市町 金沢市: 15市町 七尾市: 11市町 輪島市: 7市町 (H36)
	指標 2	交流拠点1時間圏 金沢駅、新高岡駅、小松空港、のと里山空港のうち2つ以上の交流拠点から1時間で到達する地域の面積	約1,700km ² (H25)	H25比3割増 (H36)
魅力ある観光資源を活かす「おもてなし」のみちづくり	指標 3	観光客の道路利用満足度 走りやすさや道路案内のわかりやすさ等、道路に対する観光客の満足度(5段階評価)	H27秋に調査	H27比向上 (H36)
	指標 4	無電柱化整備率 金沢城周辺の幹線道路のうち無電柱化された道路の割合	80% (H25)	100% (H36)
生命・生活を守る強くしなやかなみちづくり	指標 5	災害時ネットワーク確保率 災害時に緊急輸送道路のルートが確保されている割合	89% (H25)	100% (H36)
	指標 6	交通事故死者数 道路における交通事故による死者数	過去最少44人 (H24)	H24比減少 (H36)
次世代へつなぐ持続可能なみちづくり	指標 7	道路施設点検実施率 近接目視による点検を実施した橋梁、トンネル、シェッド等の割合	34% (H25)	100% (H30) ^{※2}
	指標 8	道路施設長寿命化率 計画的に維持管理を行っている橋梁、トンネル、シェッド等の割合	64% (H25)	100% (H36)
豊かな暮らしを支える快適なみちづくり	指標 9	渋滞発生区間長 金沢市街地の渋滞発生区間 ^{※3} の道路延長	約30km (H22)	H22比半減 (H36)
	指標 10	歩行者・自転車利用者の道路利用満足度 歩行・走行の快適性や安全性等、道路に対する歩行者・自転車利用者の満足度(5段階評価)	H27秋に調査	H27比向上 (H36)

※1 日常生活に負担が少なく通勤できる目安を1時間に設定。(本県における通勤1時間未満の世帯数の割合は約95%(H20総務省調査))

各市町庁舎から県内主要都市の市庁舎への移動を基準とする。(金沢市は県庁舎)

※2 5年サイクルで橋梁、トンネル、シェッド等の点検を実施することとし、目標年度をH30に設定。

※3 金沢市街地の幹線道路のうち、混雑時の車両走行速度が20km/hr未満となっている区間。



石川県土木部道路建設課

〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
TEL.076-225-1721 FAX.076-225-1723

ホームページ

<http://www.pref.ishikawa.lg.jp>